

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立玉島小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研究を中心に、学習の仕方を児童自らが選択調整し、友だちと協働しながら思考・判断・表現していく活動を取り入れ、主体的に学ぶ力が高まった。今年度も協働的な学びを中心に、児童の思考力・判断力・表現力を高めていきたい。</p> <p>・支援会議やケース会議等を適宜開催し、児童一人ひとりについて全職員で情報共有しながら支援を行ってきた。今年度も、学級力アンケート等で学級集団に対する満足度や生活意欲度を見るなどして現状を把握し、教師と共に児童自身が主体的に学級集団を高めていこうとするなど、思いやり・支え合い・感謝のハッピーサイクルを大切に集団づくりをしていきたい。</p> <p>・地域人材の活用を進め、地域との交流を図ったり、専門的知識や技能をもつ人を講師とした体験学習を実施したりするなど、積極的に児童の学びの幅を広げることができた。さらに新しい地域人材や地域素材の発掘を進め、地域のよさを活かした活動を仕組み、その学びを発信していきたい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	<p>“たくましく まごころいっぱい しっかり考え まなびあう” 子どもの育成</p> <p>～豊かでたくましい心と体の育成と確かな学力の定着をめざして～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研究を中心に授業改善を進める。</p> <p>②集団づくりと特別支援教育の両視点から児童を育てる。</p> <p>③地域のよさ（ひと・もの・こと）を活かした豊かな体験活動を行う。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果			評価	意見や提言
				●学力の向上	○児童が目的意識をもちながら学び合い、考えを深めたり広げたりする授業を行う。自分の学びを自覚できる場を設定する。			○学習に関するアンケート「学びのゴールを意識して学習に取り組んでいると思う。」学校評価の質問事項「授業を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思う。」に肯定的な回答した児童80%以上	・「唐津の学びスタイル」の実践を固め、深い学びへつながる授業改善を行う。チェックシートを活用して学期毎に振り返る機会を設定する。 ・児童の振り返りの記述やアンケートを基に、指導や支援の方法を探り実践する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学級力アンケート「友達を支える力」「安心を生む力」の項目において肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学級力アンケートを年3回実施し、結果を目に見える形で児童へ返す等その活用方法について工夫する。 ・自問ノートや道徳ノートの児童の記述に価値を見出しコメントを書く。 ・ここに集会(人権集会)を年4回実施する。 ・縦割り活動に取り組み、異学年との交流を通して、協力、助け合いができる機会を増やす。	A	・自問掃除の気持ちを高めるために、放送で呼びかけたり、全校集会で話をしたりした。 ・ここに集会の際には、テーマに沿った話し合いを縦割り班で行い、互いの意見を交換できた。 ・ウォークラリー大会やレッツプレイ、バス旅行などの学校行事で、上級生が下級生をリードする形で活動をした。 ・学級力アンケートを3回実施し、各学級でよりよい学級にする意識づけをおこなった。	A	・アンケートを定期的に取り入れ、担任の先生と児童が共に意識を高める取り組みはよいことだ。	道徳教育推進リーダー 特別活動部 人権・同和教育	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・玉島っ子アンケートを2か月に1回実施し、児童の生活の問題点を把握、改善する。把握したことや児童の様子などから、毎月1回程度の生活打ち合わせや連絡会等で気になることを共通理解を話し合うようにする。	A	・生活打ち合わせを計画的に実施し、職員連絡会において児童の生活の様子を全職員で共有した。1か月に1回実施した玉島っ子アンケートでは、アンケートを取った後、担任による個人面談を行い、問題点があれば改善するよう継続的な指導を行った。	A	・定期的なアンケートで児童の困り感に寄り添い対応することは、大変なことだが、大切なことなので継続してほしい。 ・子供同士がトラブルの中で学ぶこともあるので、大人がすぐに介入して解決を図ることも大事だが、見守っていくことも大事にしてほしい。	生徒指導部 教育相談	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みの実践	・児童への学校診断アンケートの「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」に肯定的な回答をした児童は86.4%であった。また、「目の前の目標などに向かってやり遂げようとしている」に肯定的な回答をした児童は88.6%であった。 ・各教科や領域において体験活動を取り入れ、その後振り返りを仕組むことで、互いに褒め合う機会を増やすことができ、それぞれのよさや自分の強みを認識する機会となった。	A	・地域人材を活用した体験活動を仕組むことで、将来への夢をもったり見通しをもったりすることにつながる。	A	キャリア教育 各学年担任	
●健康・体づくり	○「運動習慣の改善や定着化」	○週に3日以上、授業以外で運動や外遊びを行う児童が75%以上	・朝や15分休み、昼休みの外遊びを奨励する。	A	・酷暑により夏場の外遊びの制限はあったものの、アンケートでは「週に3日以上外遊びをしている」と答えた児童が75%であった(うち「毎日」は25%)。 ・運動会や持久走記録会、レッツプレイ等の機会をとらえて運動の奨励を行ってきた結果、意欲をもって運動に向かう児童の姿が見られた。	A	・毎日の登下校の見守りを行っているが、子どもたちの様子はいつも元気で、上級生と下級生の関係もよい。	保体部	
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・事例研修などを適宜取り入れ、自分事意識や危機意識を高めておく。 ・安全教育は、地域の実情に合わせて行い、体験的学びと振り返りを大切に、自ら命を守るとうとする意識を高める。 ・複数の目で安全点検を行い、未然防止に努める。	A	・交通安全教室や全ての避難訓練について、より実効性のあるものになるよう、自分事として児童が捉えることができるように職員で見直しを行った。 ・保護者や地域の見守り隊の方の協力もあり、1年間、児童の交通事故は0(ゼロ)であった。また、大怪我を伴う校内事故もなかった。	A	・交通安全教室では、自転車の乗り方の練習も取り入れるとよいと思う。 ・児童の交通事故が0(ゼロ)であることは何よりもよいことだ。	生徒指導部 教頭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日に定時退勤日を設定する。 ・その日の退勤時刻を見通した働きをするよう啓発し、平日18:30施設を目指す。 ・定期的な共有フォルダーや教材を整理し、様式や資料の共有化を図り、効率的に業務を進める。 ・職員会議削減数、会議のペーパーレス化等の業務改善を推進する。	A	・定時退勤日の金曜日は、17:30を目途に退勤ができ、金曜日以外は18:30には、完全退勤ができている。 ・共有フォルダーや職員室の棚、机上の整理について定期的に呼びかけを行うことで、業務の効率化につながっている。	A	・児童数が一段と減り複式学級が増えて、大変だと思うが工夫して頑張っている。	教頭 教務 主査	
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・伸びっ子研・ケース会議・支援会議等の開催、情報共有をする。	B	・職員連絡会には、必ず気になる子どもについての話し合いを行い、共通理解を図ることができた。 ・ケース会議については、あまり計画的に進めることができなかった。	A	・これからも一人一人に応じた細やかな取り組みを続けてほしい。	特別支援C 特別支援学級担任	
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
				○開かれた学校づくり	○保護者・地域との連携	○地域人材を活用した生活科・社会科・総合的な学習の時間(玉島学)を年間1回以上全クラスで実施	・玉島学で、全クラスで地域人材を活用する。 ・学校での学びを発信し、地域の脳心を取り込んでいく。 ・サークルクラブのより良い活用方法を探っていく。		A
○小小連携、小中連携の推進	○9か年の学びを念頭に置いた、小小連携、小中連携の推進。	○浜玉中学校区での体験活動や授業公開等を実践する。(合同体験1回、授業公開1回以上)	・中学校区で共通目標を設定し、実践を行い、評価・改善していく。	B	・生活科や総合的な学習の時間での活動において、小小の連携は行うことができた。しかし、授業交流については実施ができていない。	B	・児童数が減っているからこそ、小小連携や小中連携を密にして、大人数の中で活動することに慣れる経験をしてほしい。	教務	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・児童が目的意識をもちながら学び合うことができるように、学習課題の設定を工夫したことで、達成感をもたせることができた。また、目的のある話し合いの場を設定したことで、考えを広げ深めあることにつながった。今後は、児童が自身の強みを自覚して、それを生かせるような学習活動の在り方を充実させていきたい。</p> <p>・玉島っ子アンケートを月1回行い、それをもとに児童と面談を行うことで、困り感や悩みを寄り添い対応することができた。また、学級力アンケートやQUTテストで客観的に学級集団に対する満足度や生活意欲度を見るなどして現状を把握し、教師と共に児童も主体的に学級集団を高めていこうとすることができた。今後も、思いやり・支え合い・感謝のハッピーサイクルを大切に集団づくりをしていきたい。</p> <p>・地域人材の活用やゲストティチャーの来校など、地域との交流を図ったり、専門的知識や技能をもつ人を講師とした体験学習を実施したりするなど、積極的に児童の学びの幅を広げることができた。次年度は、さらに地域のよさを活かした活動を仕組み、地域への愛着や誇りをもつことにつなげ、その学びを発信していきたい。</p>
----------------	--